

環境関係の加盟団体(抜粋)

団体名
(財)地球環境産業技術研究機構
APEC環境技術交流促進事業運営協議会
(財)国際エメックスセンター
資源リサイクルシステムセンター
グリーン購入ネットワーク
(社)産業と環境の会
(社)土壌環境センター
エコマテリアル研究会
(財)琵琶湖・淀川水質保全機構

環境・社会貢献関係の寄付等(抜粋)

名称
米国同時テロ事件に対する見舞金等
第14回毎日国際交流賞
第5回世界閉鎖性海域環境保全会議
第11回ジャパンフラワーフェスティバル
瀬戸内海オリーブ基金
国際教育音楽祭
第10回環太平洋有害廃棄物国際会議
国際NPO学会アジア地区大会
2001地震火山・世界子どもサミット

情報発信

クボタが長年にわたって取り組んできたさまざまな環境保全活動への理解を深めていただくため、インターネットや広報誌などの媒体を通して、幅広い情報を提供しています。

ホームページ

クボタは1996年8月から、環境ホームページを開設しています。環境ホームページは、地球環境憲章、環境経営の基本方向、環境自主行動計画、環境報告書、環境意識占いからなり、「人とともに、自然とともに地球環境をみんなで考える」クボタの取り組みを紹介しています。



環境ホームページアドレス

日本語 <http://www.kubota.co.jp/kubota-ep/index.html>

英語 <http://www.kubota.co.jp/eng/index.html>

広報誌『GLOBAL INDEX』

クボタは砂漠の緑化や環境施設事業に数々の実績をもっています。広報誌『GLOBAL INDEX』(グローバルインデックス)は、そうしたクボタの企業文化について掘り下げるために創刊されました。誌名は、クボタの多彩な事業分野の個々のインデックス(索引)すべてが幅広く社会に貢献していく、という意味から名付けられたものです。

(現在は誌面での発刊は休止し、インターネット上でWeb版を発信中)



グローバルインデックス

<http://giweb.kubota.co.jp/>

外部表彰事例

恩加島工場・武庫川工場が

平成13年度リサイクル推進協議会会長賞を受賞(2001年10月25日)

恩加島工場が

第16回素材産業環境優良工場表彰経済産業局長賞を受賞(2001年11月22日)



クボタの環境保全活動の歩み

(年度)

- 2001年 地球環境憲章改訂、環境自主行動計画策定
- 2000年 国内全事業所でISO14001認証取得
環境安全部新設(環境管理部と安全衛生推進部が統合)
- 1999年 環境報告書第1号発行
- 1998年 全従業員に環境意識アンケート調査実施
環境家計簿運動開始
- 1997年 ISO14001認証取得(筑波工場、新淀川環境プラントセンター)
- 1996年 環境ホームページ開設
- 1995年 環境管理規程の改訂
- 1994年 環境監査制度の見直し、充実
- 1993年 環境に関するボランティア・プラン策定
- 1992年 地球環境憲章制定
地球環境委員会設立
第1回地球環境大賞産経新聞社賞受賞
- 1991年 社内環境功績賞制定
日経ビジネス環境ランキング1位
- 1990年 クボタ創業2世紀ビジョン「地球環境の保全に貢献できる会社」・企業スローガン「美しい日本をつくろう」制定
- 1984年 作業環境管理組織の整備強化
- 1978年 公害管理部を環境管理部と改称
- 1973年 中央公害パトロール(監査)制度発足
- 1972年 本社に公害管理部、全工場に公害管理課設置

用語解説

- 本文 P28** LCA(Life Cycle Assessment)
資源の採取から、製造、加工、物流、販売、使用、リサイクル、廃棄に至るまでの一連の各工程で環境負荷を定量的に分析・把握し、トータルな環境改善をめざそうとする手法のこと。
- 本文 P31** ゼロ・エミッション
資源として再利用できない廃棄物の排出をゼロにする活動を指す。実際には廃棄物をゼロにすることは困難で、最終的に埋め立て処分に戻る廃棄物をゼロにすることを目標にする企業が多い。
- 本文 P35** グリーン調達、購入
環境への負荷の少ない製品やサービスなどを環境負荷の低減に努める事業者から優先して購入すること。
- 本文 P37** SI接頭語
 $n(\text{ナノ}):10^{-9}$ 、 $p(\text{ピコ}):10^{-12}$
- 本文 P37** TEQ(Toxic Equivalents)
ダイオキシン類の量を最強の毒性を有する2,3,7,8ジベンゾーパラージオキシンの量に換算した毒性等量。
- 本文 P37** BOD(Biochemical Oxygen Demand)
生物化学的酸素要求量。有機物による水質汚濁の指標で、水中の有機物が微生物により酸化分解されるのに要する酸素量から算出される。
- 本文 P37** COD(Chemical Oxygen Demand)
化学的酸素要求量。有機物による水質汚濁の指標で、水中の有機物が酸化剤により酸化分解されるのに要する酸素量から算出される。
- 本文 P39** 第1管理区分
作業環境管理が適切であると判断される状態をいう。
- 第2管理区分
作業環境管理になお改善の余地があると判断される状態をいう。
- 第3管理区分
作業環境管理が適切でないと判断される状態をいう。
- 本文 P40** PRTR(Pollutant Release and Transfer Register)
企業が工場などの操業によって環境中(大気、水域、土壌)に排出したり、廃棄物として移動した調査対象環境汚染物質の量を、自ら把握し国に報告し、国はデータを収集・整理し、公表する制度のこと。